

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	いせはら景観資源の発見			事業番号	28-102
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	都市部	重田 浩光	都市政策課	飯田 裕一	

計 画 (Plan)

総合計画体系	都市力	まちづくり目標	4	住み続けたい快適で魅力あるまち	
		基本政策	8	自然と調和した住みよいまちづくり	
		施策展開の方向	13	愛着のある美しいまちをつくる	
		施策	28	個性と魅力あふれるまちづくりの推進	
予算事業名	景観まちづくり推進事業費				
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務    (選択してください)→			法令上の位置づけ	できる規定がある
事業開始年度	開始年度	平成22年度	～	終了年度	
関連法令等	景観法、景観条例、地域まちづくり推進条例				
国・県の計画等	—			計画期間	—
関連個別計画	都市マスタープラン、景観計画、緑の基本計画			計画期間	—
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	・平成25年度に景観計画を策定、平成26年4月に伊勢原市景観条例を施行し、景観法の運用とともに、地域の特性を生かし、その良さを引き出す景観まちづくりの取組を開始しました。 ・良好な景観形成は、平成28年に改定した伊勢原市都市マスタープランに定める、本市の特性である自然や歴史・文化を生かした魅力ある都市づくりに繋がるものです。				
目的 (何をどうしたいのか)	地域で親しまれている景観資源を市民や来訪者と共有するため、地域景観資源の登録制度を活用し、市民・地域が主体的に活動する景観まちづくりを推進します。				
主な対象 (誰・何を対象に)	市民等				
事業内容 (手段、手法など)	・景観条例に基づく地域景観資源登録の推進を図ることで、市民が地域に親しみをもち主体的に活動する景観まちづくりを推進します。 ・市民参加・協働による景観シンポジウムや景観写真展を継続して実施し、伊勢原に対する誇りと愛着を醸成します。 ・市民や事業者により景観まちづくりに積極的に取り組んでもらえるように、優れた景観まちづくりの取組に対して表彰を行う制度を検討します。				
事業行程	項目	年度			
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	地域景観資源の登録	10件	30件	50件	
	景観シンポジウム・景観写真展の開催	実施	実施	実施	
表彰制度	制度設計	要綱制定	制度運用		
目 標	【指標名】	【現状値】	年度		
			平成30年度	令和元年度	令和2年度
	みんなが思った伊勢原の景観	2,500点 (平成28年度)	2,800点	3,100点	3,400点



事業実施 (Do)

## 事業実施 (D)

<b>事業の「取組方針」</b> (前年度事務事業評価)	地域景観資源登録制度のさらなる推進により、個性と魅力ある景観まちづくりを進めます。 また、景観写真展などの啓発事業や表彰制度などを通じて、市民主体の景観まちづくりに取り組みます。				
<b>実施方法</b> 〔選択・記入〕	● すべて直接実施                      ○ 左記以外				
	<input type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	<b>委託先又は指定管理者</b>		
	<input type="checkbox"/> 補助金		<b>補助先</b>		
	<input type="checkbox"/> その他		<b>具体的内容</b>		
<b>実施結果</b>	<b>項目</b>	<b>年度</b>			
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	地域景観資源の登録	10件	18件		
	景観シンポジウム・景観写真展の開催	継続実施	継続実施		
	表彰制度	制度検討	制度設計		
<b>実施した取組の内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民公募や地域のまちづくり団体等からの推薦、また、市民ワークショップの開催など、多様な市民参加の機会を通じて地域景観資源の登録候補を選定し、まちづくり審議会による審議を経て、新たに8件の地域景観資源を登録しました。</li> <li>・景観シンポジウム及び景観写真展を開催し、本市の多様な景観資源を市民相互に共有しました。</li> <li>・表彰制度等に関する先進事例の研究を進めました。</li> </ul>				
<b>目標の達成状況</b>	<b>【指標名】</b>	<b>【現状値】</b>	<b>年度</b>		
			平成30年度	令和元年度	令和2年度
	みんなが思った伊勢原の景観	2,500点 (平成28年度)	3,862点	4,365点	

<b>コスト</b>	<b>年度</b>	<b>平成30年度 実績</b>				<b>令和元年度 実績</b>				<b>令和2年度 実績</b>				
	<b>事業費合計 (a)</b>	411		千円	261		千円	0		千円				
	<b>内訳</b>	<b>国県支出金 ①</b>	0		千円	0		千円	0		千円			
		<b>地方債 ②</b>	0		千円	0		千円	0		千円			
		<b>その他特財 ③</b>	0		千円	0		千円	0		千円			
		<b>一般財源 (a)-①-②-③</b>	411		千円	261		千円	0		千円			
	<b>国県支出金の内容</b>													
	<b>その他特財の内容</b>	<b>受益者負担</b>	○有      ●無			<b>前回の改定時期</b>								
		<b>その他</b>												
	<b>人件費</b>	<b>正規職員</b>	0.3	人	2,553	千円	0.3	人	2,610	千円	0	人	0	千円
		<b>その他の職員</b>	0	人	0	千円		人	0	千円	0	人	0	千円
		<b>人件費合計 (b)</b>	0.3	人	2,553	千円	0.3	人	2,610	千円	0	人	0	千円
	<b>トータルコスト (a)+(b)</b>		2,964		千円	2,871		千円	0		千円			
	<b>単位当たりコスト</b>	<b>対象数</b>	<b>定義</b>	啓発事業等参加者数		単位	啓発事業等参加者数		単位			単位		
			<b>対象数</b>	1843		人	1,277		人					
<b>総事業費 / 対象数</b>		1,608		円	2,248		円			円				

評価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 計画どおり (A) <input checked="" type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	B	左記判断理由	伊勢原市景観計画に基づき、景観まちづくりシンポジウムや景観写真展を開催し、市民の景観まちづくりへの理解を深めるとともに、本市の数多くの景観資源を市民相互に共有することができました。また、景観資源登録については、多様な市民参加と協働により、その選定に当たることができましたが、8件の登録にとどまりました。
実施水準 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input type="radio"/> 一律に比較できない事業	A	他都市の事業内容等	市民公募や地域のまちづくり団体等からの推薦、また、市民ワークショップの開催など、多様な市民参加協働の機会を経て、地域景観資源登録候補を選定することができました。
有効性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	A	左記判断理由	平成22年度から継続する景観写真展では、これまでに4365点の応募があり、いせはらのまちの個性や魅力を再発見するとともに、市民相互に共有し、市民の誇りと愛着を醸成することができました。景観資源登録により、多くの景観資源を内外に発信することで、本市の知名度や評価を高めていくことができました。
効率性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	A	左記判断理由	多様な市民参加協働を通じた景観まちづくりの推進により、伊勢原のまちに対する市民の誇りや愛着を醸成するとともに、魅力と活力のあるまちづくりが実現されます。



取組の改善 (Action) へ

取組内容の改善 (Action)				
所属長による今後の方向性の判断	方向性 〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 見直しの上継続	事業推進上の課題	景観写真展や景観まちづくりシンポジウムなど、市民参加協働のプロセスを景観まちづくりへと発展をさせていくことが大切です。このことから、継続的な啓発事業の実施とともに、景観資源登録を推進する必要があります。
令和2年度取組方針		地域景観資源登録制度のさらなる推進により、個性と魅力ある景観まちづくりを進めます。また、景観写真展などの啓発事業や表彰制度などを通じて、市民主体の景観まちづくりに取り組みます。		
所管部長による総評		景観まちづくりは、地域の景観資源の良さを磨いていくこと、また、市民主体の活動により、地域に根ざした取組とすることが大切です。こうしたことから、個性と魅力にあふれるまちづくりを推進するため、景観まちづくりに対する理解をさらに深めていく必要があります。		